

2015-6年度活動報告（2015年10月1日～2016年9月30日）

**A. はじめに**

**B. 人材育成事業**

1. 勉強会
2. 講師派遣
3. 他機関との連携

**C. 研究事業**

**D. 実践事業**

1. マウシガ村の環境・健康・平和教育
2. 愛泉会への医師派遣
3. 他 NGO などとの連携

**E. 事務局業務**

1. 事務所
2. 運営
3. 広報
4. 会員

**F. 会計（収支計算書も参照）**

## A. はじめに

2015-16年度は1年を通しての活動を行った2回目の年となった。事務局メンバーの入れ替わりなどあり活動は縮小しているが、2種類の勉強会を中心に継続することができた。

## B. 人材育成事業

### 1. 勉強会開催

学生と若手保健関係者を対象にした「寺子屋（シーズン2）」、ゲストスピーカーまたは事務局員による国際保健のトピックに関するディスカッション「連続勉強会」を原則各月1回で開催した。（開催実績は別添表1、2）

「寺子屋」は、昨年度に引き続き「WHOの標準疫学」をテキストとして用いた座学に加えて、Epi Info 7（米国疾患予防管理センターが開発、公開する疫学ソフト）の演習も行った。講師は代表理事（樋口）がつとめた。会場は2015-16年度よりNPOステーションに変更した。

「連続勉強会」は、昨年度の「抄読会」を引き継ぐ形で、グローバルヘルスのさまざまなトピックに関する勉強会を行った。うち6回はゲストスピーカーを招いての開催となった。

### 2. 講師派遣

昨年度に引き続き、依頼のあった講義・講演に講師を派遣した。7件の講師派遣依頼があり、代表理事が講師をつとめた。（派遣実績は別添表3）

### 3. 他機関との連携

昨年度に東ティモール国立保健科学院（INS）と共に計画した「INS職員の研究能力向上プロジェクト」について、INSはその後プロポーサルとして完成することができなかつたため、プロジェクトの実施は困難と判断していた。2016年3月に正式に中止を申し入れた。この時点で訪問時にINS所長が交替していたことをはじめ職員が定着しないなど不安定な状態が継続しており、また、JOCVの後任も派遣されないなど今後関係を継続することは難しいことがうかがわれた。

## C. 研究事業

Bridges in Public Health 設立時より科研費による研究プロジェクトを継続してきたが、2016年3月末で終了した。これに伴いリサーチアシスタントとの契約は2016年3月末で終了した。本プロジェクトの活動費は、リサーチアシスタントの謝金6ヶ月（2015年10月～2016年3月）分、および、最終報告会関連の経費の合計3,063ドル（346,864円）のみを指定された寄付を通じた法人経費で行った。他は科研費による。

2015-16年度は、その他の研究事業は行っていない。

## D. 実践事業

### 1. マウシガ村の環境・健康・平和教育

2016年3月の代表理事の渡航時、担当の Florentino と今後の活動について話しあった。昨年度末（2015年8月）の話し合い後2016年3月まで、マウシガ村に行く機会はなかったこと、この後は月1回のペースでマウシガを訪問し健康教育と清掃の活動を行うこと、実費（バイク燃料費＋維持費、日当、活動経費）のみ法人から支払うことを確認した。2016年8月の代表理事の出張（他機関）時にマウシガを訪問する機会があり、活動を確認し、4月～8月の5回分の経費283ドル（27,561円）を支払った。

2015/16年度は、この事業に関して助成金の応募はしなかった。

## 2. 愛泉会への医師派遣

2014年8月5日付で交わした法人委託契約について、2016年3月31日に2度目の更新を行なった。なお、2016年2月より土曜日半日の派遣となった。老人ホームの健康管理と訪問診療が主な業務になっている。

## 3. 他 NGO などとの連携

アジア保健研修所（AHI）との連携を継続している。2015-16年度は、NGO-ODA 協議会への質問状の提出、市民のための伊勢志摩サミットの健康分科会の共催、出前勉強会を協働で行った。

## E. 事務局業務

### 1. 事務所

名古屋市中村区名駅南の NPO ステーション賃貸を継続している。入居時（2015年9月）は机2つ、書庫4つを借り、キャビネット設置料を含めて、家賃は25,000円/月（＋消費税）であったが、2016年4月より、机1つ、書庫2つ、及びキャビネット設置料の13,000円/月（＋消費税）に変更している。また、2016年7月に電話・インターネット接続料金を見直し、プロバイダーを変更した。

### 2. 運営

代表理事：2016年2月より、Bridges in Public Health は金曜日夕方3時間と土曜日の非専従となった。土曜日は愛知国際病院への派遣となっている。

事務局員1：2016年6月から科研費技術補佐員、その後は Bridges in Public Health パート職員として週2回勤務していたが、海外転居に伴い、2016年7月で契約を終了した。

事務局員2：事務局員1の後任として、謝金ベースのアルバイトとして、8月より週半日（原則として金曜日午後）経理と事務を担当している。なお、事務局を置いている NPO ステーションの親団体である外国人医療センター（MICA）の事務局員で、MICA には火・木・土の午後勤務している。

職員の退職、非常勤への変更に伴い、社会保険、労働保険の対象者が0人となったことを社会保険庁及び労働監督局へ届出し、2016年3月末で Bee パートナーズ社労士事務所と顧問契約を終了した。また、業務見直しの結果、クラウド上の会計ソフトの契約を終了し、会計

ソフト「弥生」を導入、松坂税理士事務所への相談は決算期のみとすることにした。事務局員が税理士との連絡など経理を担当している。

### 3. 広報

「大学病院医療情報ネットワーク研究センター (umin)」のホームページサービス上のサイトを2016年3月に公開した。ウェブサイトと連動させてフェイスブックページも継続している。サイト構築は株式会社プロテックに依頼した。

### 4. 会員

2015-16年度末で個人正会員24人（うち終身会員4人）、個人賛助会員3人、団体会員2人である。新規入会は7件あった。前年度までに入会済みの会員については会費の納入依頼ができなかった。

### F. 会計（収支計算書も参照）

2015-16年度、売上高4,402,100円、経費2,687,928円であった。営業外利益62,970円、税金を合わせて、当期純利益金額は1,440,444円であった。納税後の純資産は6,668,539円となった。

## 別添 活動報告リスト

表1. 勉強会（寺子屋）実績 於：NPOステーション

回	日	内容	参加人数	担当
1	10月9日	公衆衛生、疫学、統計学、統計学ソフト	4	事務局
2	11月13日	健康と疾病の測定指標	0	事務局
3	12月11日	健康と疾病の測定指標	1	事務局
4	1月8日	CDCの疫学ソフト、Epi info を使ってみる	2	事務局
5	2月12日	研究デザイン	4	事務局
6	3月11日	偶然誤差、バイアス、交絡	4	事務局
7	4月8日	Epi info で記述統計をしてみる	1	事務局
8	5月13日	生物統計の基礎1	2	事務局
9	7月8日	生物統計の基礎2	2	事務局
10	9月16日	疫学における因果推論	2	事務局

表2. 勉強会（連続勉強会）実績 於：昭和生涯学習センター

回	日時	内容 <sup>1)</sup>	参加人数	担当
1	10月23日	グローバルヘルスに影響を与えてきた文書を読む(1)	4	樋口倫代
2	11月27日	グローバルヘルスに影響を与えてきた文書を読む(2)	2	樋口倫代
3	12月18日	ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ：ザンビアを例に	7	濱田直美
4	1月29日	精神保健の国際協力はなぜむつかしいか？	7	西尾彰泰
5	2月26日	市民社会による政策提言ってどういうこと？	21	稲葉雅紀
6	4月22日	太平洋島嶼国での肥満問題	9	水元芳
7	5月20日	東ティモールの乳幼児栄養不良に関わる行動的、社会的要因とその要素	9	樋口倫代
8	6月24日	日本のHIV/AIDS予防の今	3	金子典代
9	7月22日	Universal Health Coverage と持続可能な開発目標 <sup>1)</sup>	7	樋口倫代
10	8月4日	Health Economics って何？	15	本田文子

1) AHI での出前勉強会

表3. 講師派遣派遣実績

日時	依頼元	内容
10月15日	愛知国際病院・国際医療支援室	第1回講演会「なんで行きたいの?～世界と日本の地域医療」
12月2日	名古屋市立大学看護学部	疫学適用論(修士課程)「交絡因子」
12月3日	名古屋市立大学看護学部	疫学(学部2年生)「疫学調査・研究の実際」
12月9日	名古屋市立大学看護学部	疫学適用論(修士課程)「因果推論」
12月16日	名古屋市立大学看護学部	国際保健(学部2年生)「健康と社会」
6月29日	DDC-GIFU	6月定例会「東ティモールの15年を垣間見て」
7月29日	大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム	フューチャーリーダーズ・フォーラム「研究・実践・人材育成を架け橋したい!」